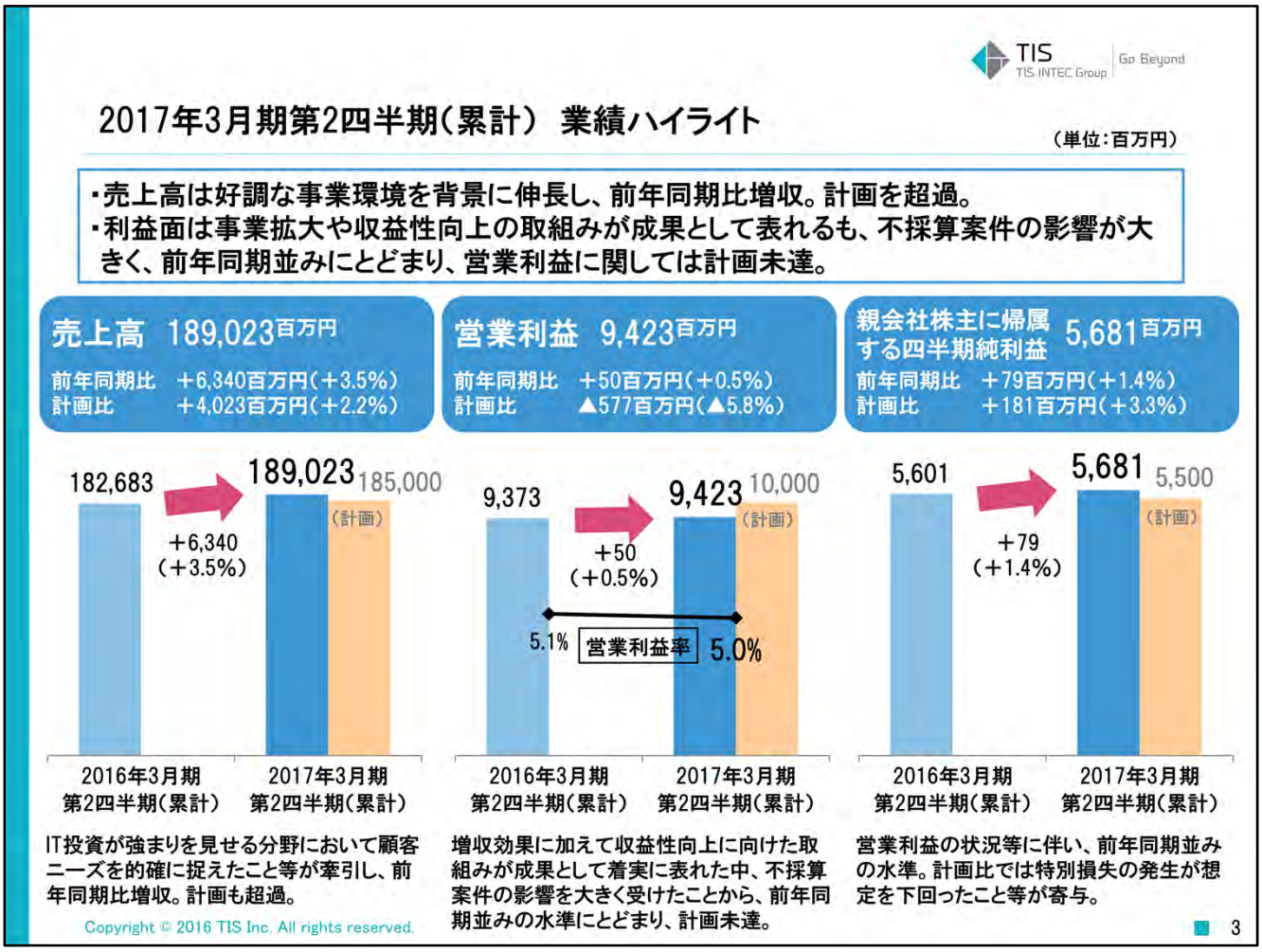
（2016年10月31日開催 アナリスト向け決算説明会 プレゼンテーション要旨）

・おはようございます。TIS　柳井です。

本日は、当社決算説明会にご参加いただき、ありがとうございます。

・まず、私の方から2017年3月期の第2四半期実績および通期の業績見通しについてご説明させていただきます。



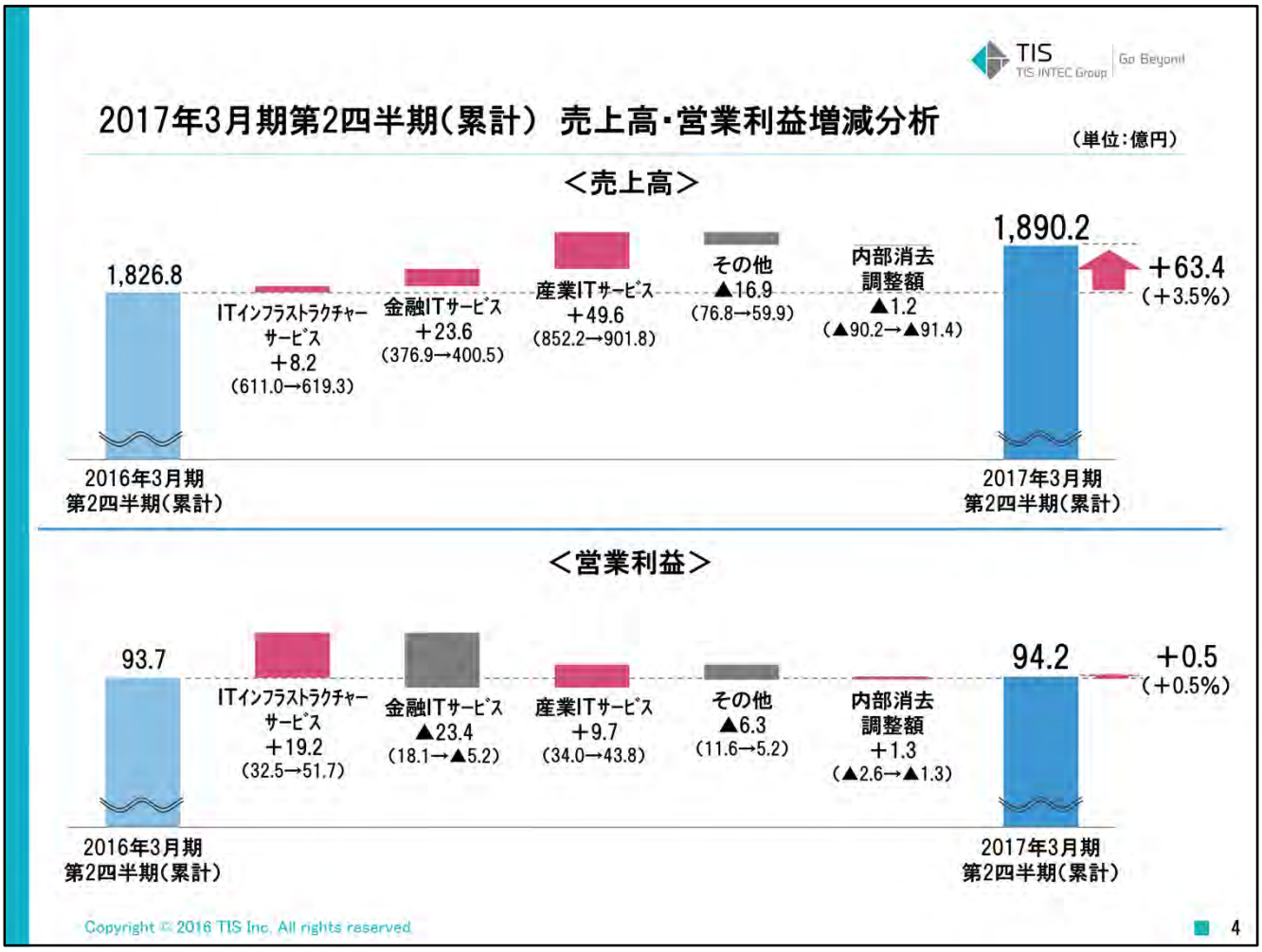
・2017年3月期上期業績の概要です。

・売上高は、好調な事業環境の中、IT投資が強まりを見える分野において顧客ニーズを的確に捉えたこと等が牽引し、前年同期比3.5%増の1,890億円となり、上期計画を2.2%上回りました。

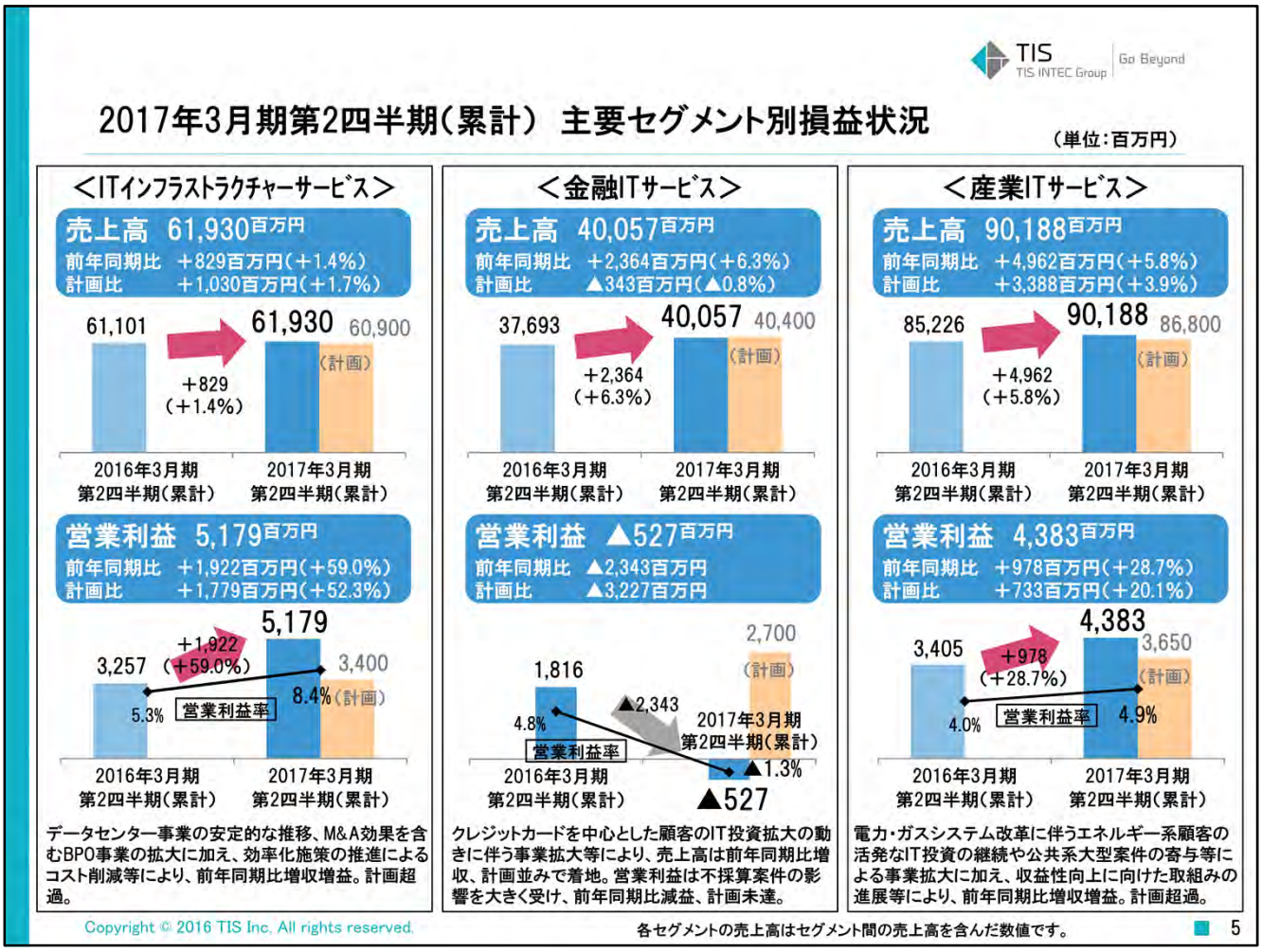
・一方、利益面ですが、増収効果に加えて収益性向上の取組みが成果として着実に出てきている中、誠に遺憾ながら第2四半期に特定の案件について引当計上した影響が大きく、営業利益は前年同期比0.5%増の94億円にとどまり、上期計画を5.8%下回りました。

・親会社株主に帰属する四半期純利益については、前年同期比1.4%増の56億円でした。計画比については特別損失の発生が少なかったこともあって計画を上回って着地しました。

・なお、当上期の不採算案件の金額は36億円でした。不採算案件については、この後、桑野からもご説明させていただきます。


TIS
TIS INTEC Group
Go Beyond
2017年3月期第2四半期(累計) 売上高・営業利益増減分析
(単位:億円)
＜売上高＞
1,826.8
ITインフラストラクチャーサービス +8.2 (611.0→619.3)
金融ITサービス +23.6 (376.9→400.5)
産業ITサービス +49.6 (852.2→901.8)
その他 ▲16.9 (76.8→59.9)
内部消去調整額 ▲1.2 (▲90.2→▲91.4)
1,890.2
+63.4 (+3.5%)
2016年3月期 第2四半期(累計)
2017年3月期 第2四半期(累計)
＜営業利益＞
93.7
ITインフラストラクチャーサービス +19.2 (32.5→51.7)
金融ITサービス ▲23.4 (18.1→▲5.2)
産業ITサービス +9.7 (34.0→43.8)
その他 ▲6.3 (11.6→5.2)
内部消去調整額 +1.3 (▲2.6→▲1.3)
94.2
+0.5 (+0.5%)
2016年3月期 第2四半期(累計)
2017年3月期 第2四半期(累計)
Copyright © 2016 TIS Inc. All rights reserved.
4

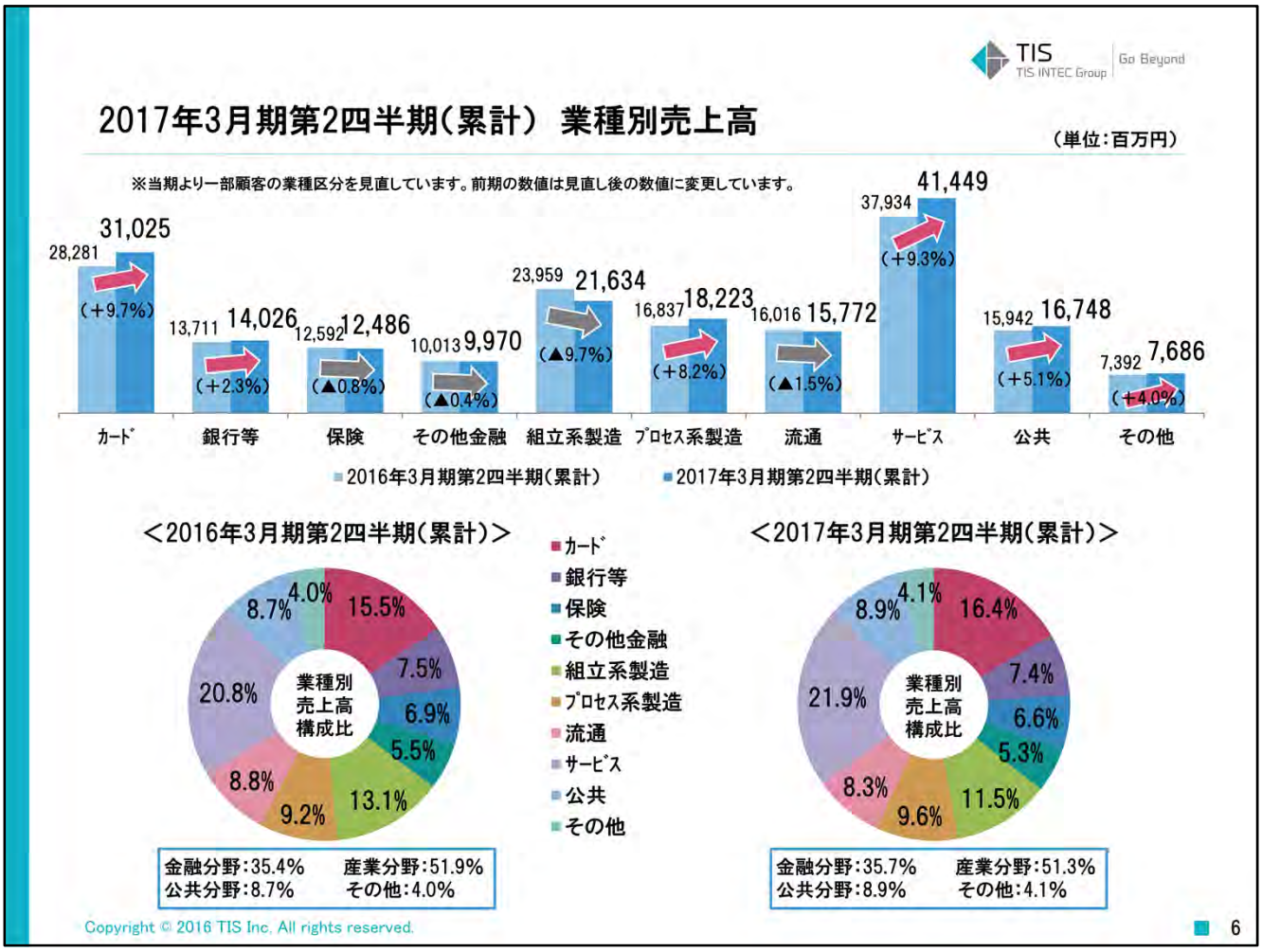
（説明省略）



・続きましてセグメント別損益についてご説明します。

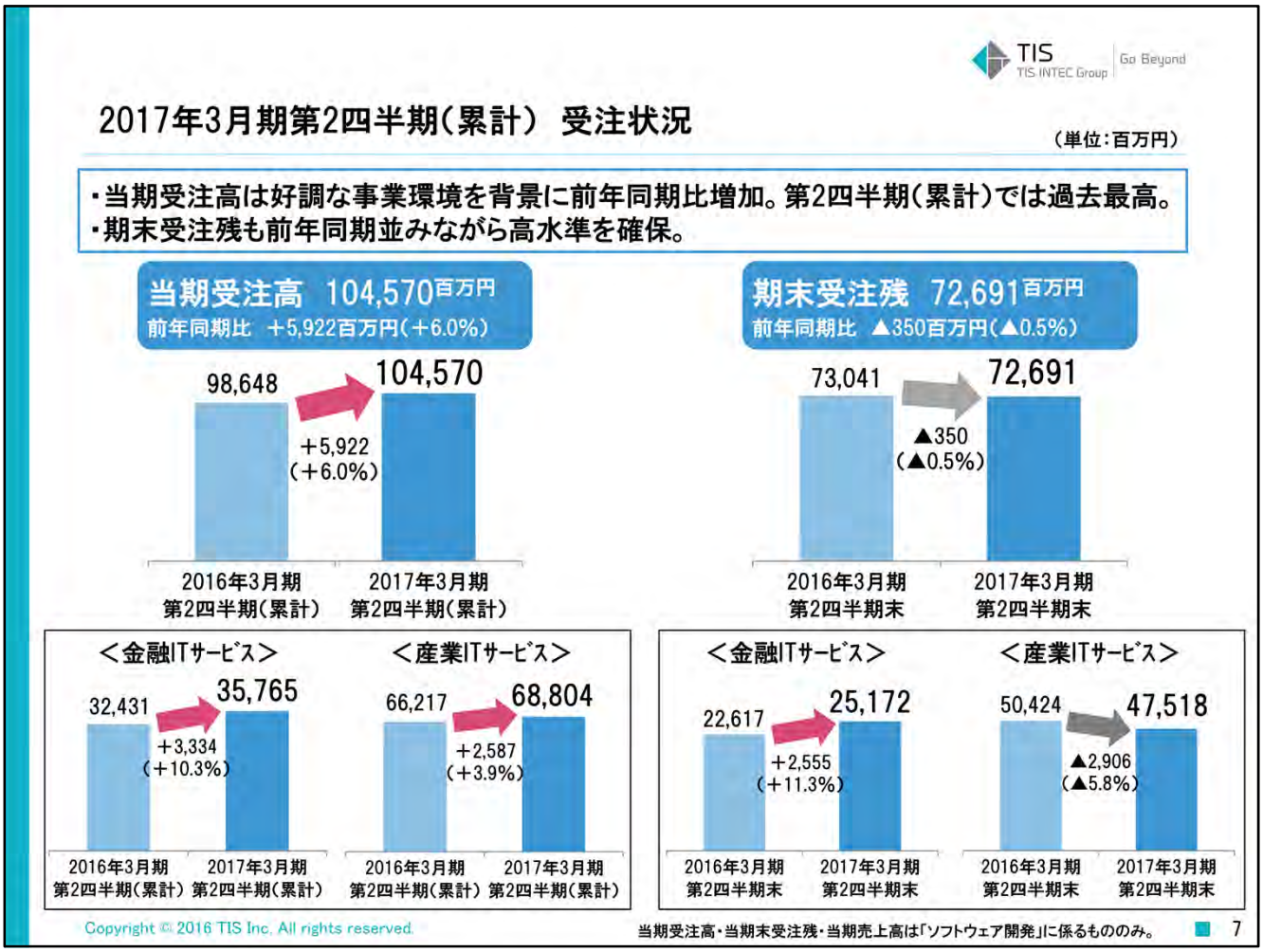
・当上期は、主要3セグメントとも売上高は前年同期比増収となりました。中でも産業ITサービスが好調でした。電力・ガス等のエネルギー系のお客様の活発なIT投資の継続や公共系大型案件の寄与もあり、全体を牽引した形になりました。

・各セグメントの営業利益については、事業拡大や収益性向上の取組みが進展した産業ITサービスが好調、効率化施策の推進によりコスト削減効果が得られたITインフラストラクチャーサービスも前年同期比で大幅な増益となりましたが、不採算案件の影響を大きく受けた金融ITは営業損失を計上することになり、前年同期比でも計画比でも大変厳しい結果となりました。



・このページは業種別の売上高の状況を示しています。

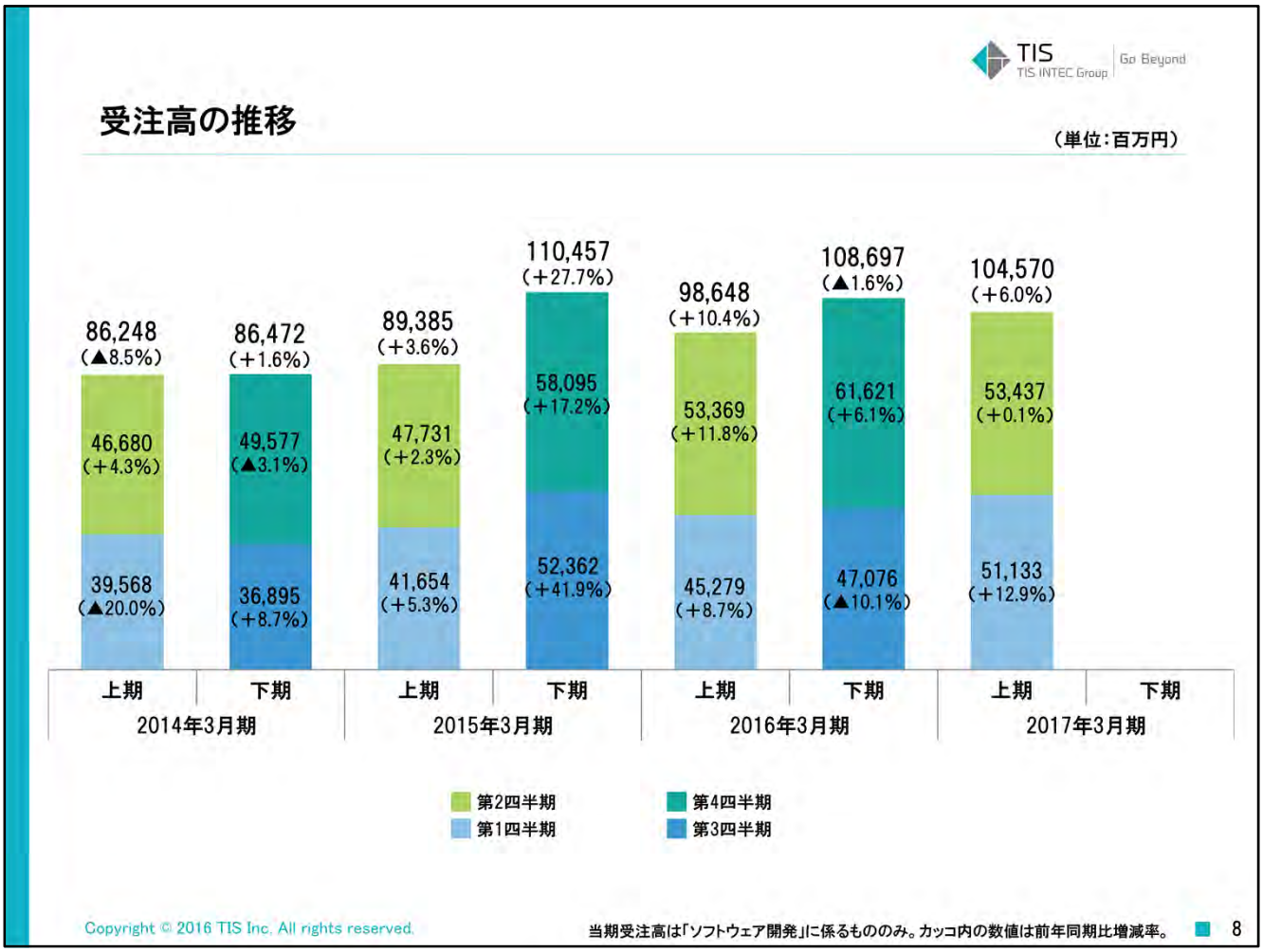
・左側が金融系、右側が産業・公共系となりますが、業種によってまだら模様という感じになりました。金融系では、大型案件の寄与等でカードが好調だった一方でマイナス金利の影響等もあって保険が微減、産業系では、プロセス系製造やサービスが好調だった一方で組立系製造や流通が景況感等の影響もあって前年同期比減収となりました。公共に関しては大型案件の寄与もあり、前年同期比増収となりました。



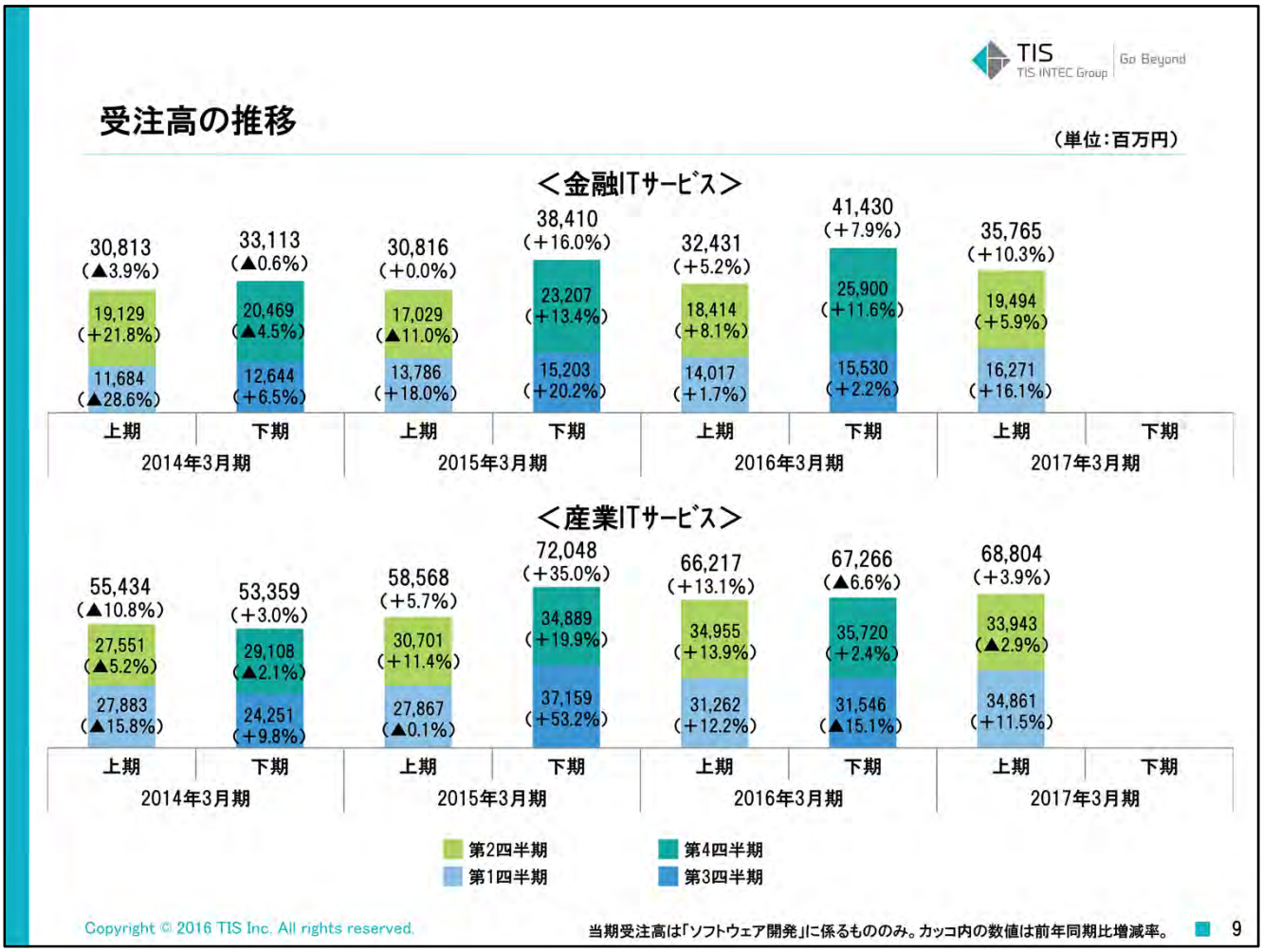
・受注の状況は好調に推移いたしました。

・当期受注高は、金融ITサービス・産業ITサービスとも積み上がり、全体では前年同期比6.0%増の1,045億円となりました。これは上期としては過去最高です。8ページの経年推移からお分かりのとおり、第2四半期の3か月では前年同期比横ばいではありますが、高水準が続いているとお考えいただければと思います。

・期末受注残は、前年同期並みの726億円でしたが、高水準を確保できていると考えています。


TIS
TIS INTEC Group
Go Beyond
受注高の推移
（単位：百万円）
86,248
（▲8.5%）
46,680
（+4.3%）
39,568
（▲20.0%）
86,472
（+1.6%）
49,577
（▲3.1%）
36,895
（+8.7%）
89,385
（+3.6%）
47,731
（+2.3%）
41,654
（+5.3%）
110,457
（+27.7%）
58,095
（+17.2%）
52,362
（+41.9%）
98,648
（+10.4%）
53,369
（+11.8%）
45,279
（+8.7%）
108,697
（▲1.6%）
61,621
（+6.1%）
47,076
（▲10.1%）
104,570
（+6.0%）
53,437
（+0.1%）
51,133
（+12.9%）
上期
下期
2014年3月期
2015年3月期
2016年3月期
2017年3月期
第2四半期
第1四半期
第4四半期
第3四半期
Copyright © 2016 TIS Inc. All rights reserved.
当期受注高は「ソフトウェア開発」に係るもののみ。カッコ内の数値は前年同期比増減率。
8

（説明省略）


TIS
TIS INTEC Group
Go Beyond
受注高の推移
（単位：百万円）
＜金融ITサービス＞
30,813
（▲3.9%）
19,129
（+21.8%）
11,684
（▲28.6%）
33,113
（▲0.6%）
20,469
（▲4.5%）
12,644
（+6.5%）
30,816
（+0.0%）
17,029
（▲11.0%）
13,786
（+18.0%）
38,410
（+16.0%）
23,207
（+13.4%）
15,203
（+20.2%）
32,431
（+5.2%）
18,414
（+8.1%）
14,017
（+1.7%）
41,430
（+7.9%）
25,900
（+11.6%）
15,530
（+2.2%）
35,765
（+10.3%）
19,494
（+5.9%）
16,271
（+16.1%）
上期
下期
2014年3月期
2015年3月期
2016年3月期
2017年3月期
＜産業ITサービス＞
55,434
（▲10.8%）
27,551
（▲5.2%）
27,883
（▲15.8%）
53,359
（+3.0%）
29,108
（▲2.1%）
24,251
（+9.8%）
58,568
（+5.7%）
30,701
（+11.4%）
27,867
（▲0.1%）
72,048
（+35.0%）
34,889
（+19.9%）
37,159
（+53.2%）
66,217
（+13.1%）
34,955
（+13.9%）
31,262
（+12.2%）
67,266
（▲6.6%）
35,720
（+2.4%）
31,546
（▲15.1%）
68,804
（+3.9%）
33,943
（▲2.9%）
34,861
（+11.5%）
第2四半期
第1四半期
第4四半期
第3四半期
Copyright © 2016 TIS Inc. All rights reserved.
当期受注高は「ソフトウェア開発」に係るもののみ。カッコ内の数値は前年同期比増減率。
9

（説明省略）

・続いて、通期の見通しについて説明いたします。

TIS TIS INTEC Group Go Beyond

外部環境の認識

・デジタル経営への志向を強める顧客のIT投資ニーズ拡大等を背景とし、事業環境は引き続き堅調に推移すると期待。但し、景気の先行き不透明感等から、一部にはIT投資動向に慎重な姿勢も見られ、今後の風向きには留意が必要。

<ITインフラストラクチャーサービス>
- データセンター事業はクラウドサービスの利用拡大の流れは変わらず。ファシリティの堅牢性に加え、付加価値の高いサービスに対する関心が高まる。
- BPO事業は企業経営の改善に資する業務アウトソーシングビジネス需要が引き続き拡大基調。

<金融ITサービス>
- クレジットカードでは基幹システムの更新等により、IT投資動向は高水準継続。
- 銀行では大手のシステム統合・刷新が終息に向かう一方、ブロックチェーンをはじめとしたFinTech分野を含め、ビジネスやサービスの革新を進めるためのIT投資は拡大基調。
- マイナス金利の状況下、銀行・保険ではIT投資動向に慎重な姿勢も見られる。

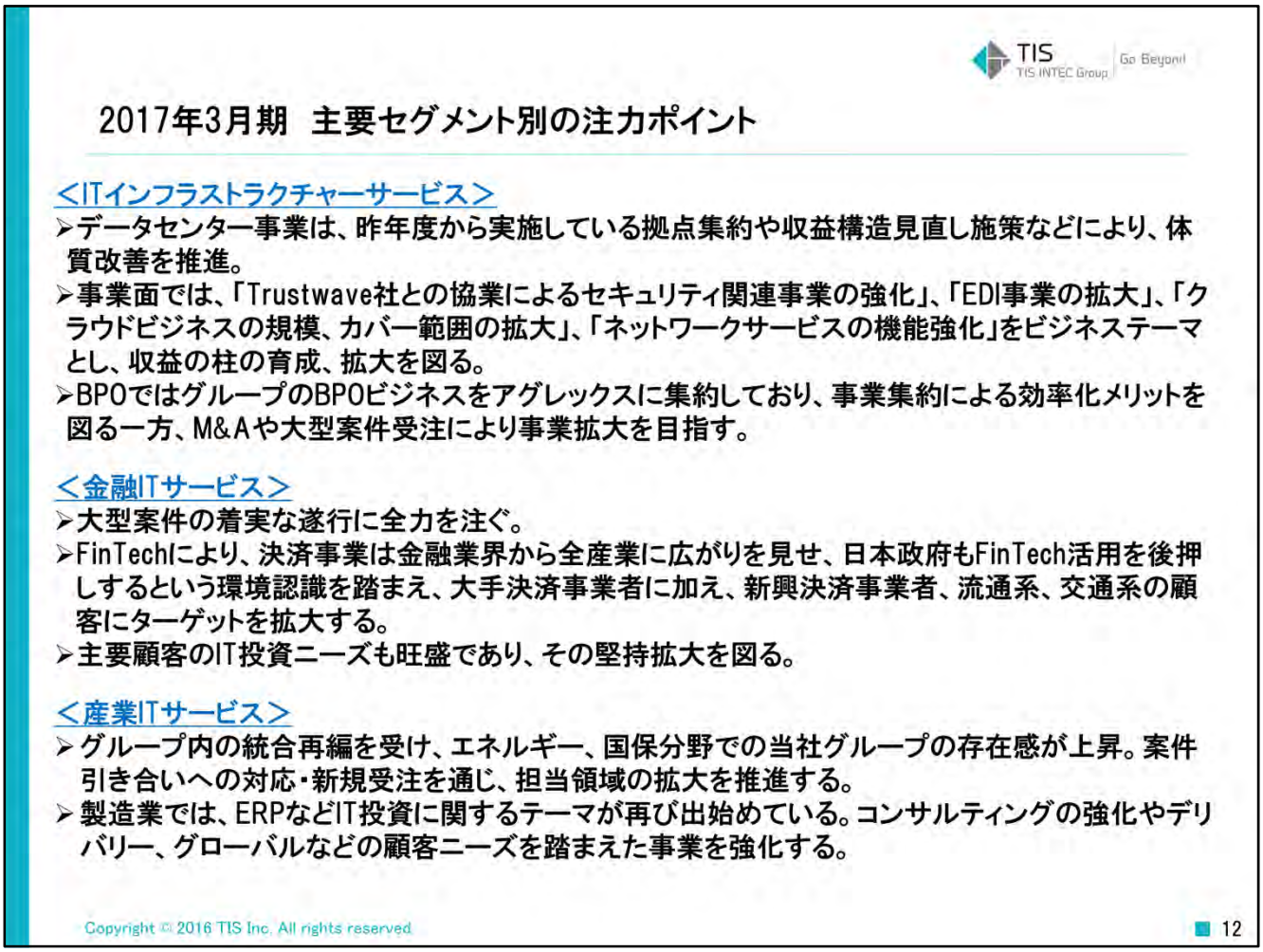
<産業ITサービス>
- 製造・サービス・流通では、マーケティング関連分野等、競争力強化を目的としたフロント系のIT投資拡大が続く。但し、景況感や業績動向に伴うIT投資の鈍化懸念がやや強まる。
- ユーティリティ系では電力システム改革・ガスシステム改革に対応するIT投資が継続。
- 公共では共通番号(マイナンバー)制度に関連し、セキュリティ関連が活況。

<これまで> <これから>

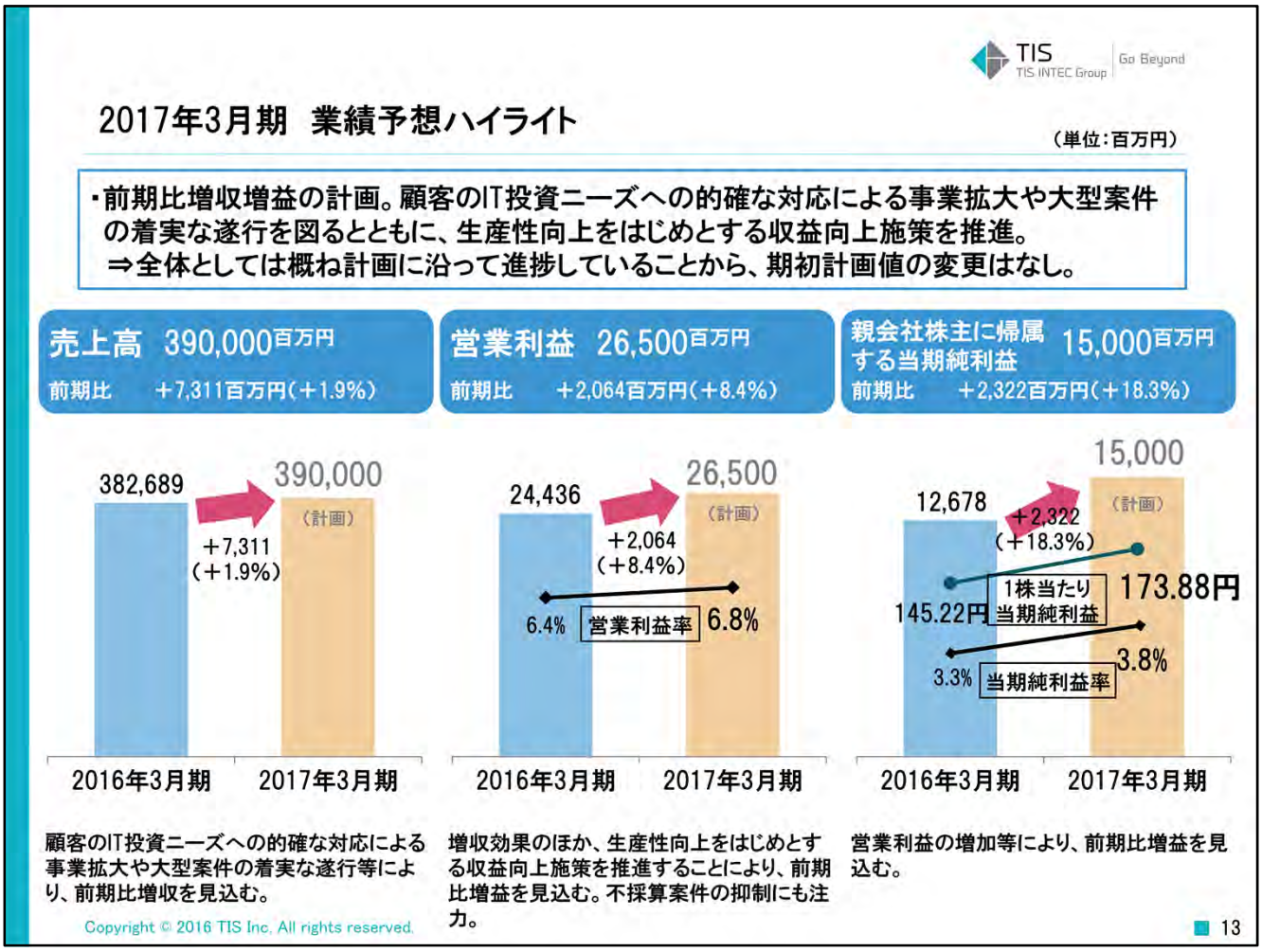
Copyright © 2016 TIS Inc. All rights reserved.

当社グループの顧客動向も参考にしているため、一般の状況と異なる場合があります。

・下期の事業環境の認識としては、全体的には引き続き堅調な状況を期待していますが、銀行や保険、製造業の一部では、IT投資が鈍化する懸念もやや強まっているように感じています。そのため、これまで「晴れ」マークとしてきた産業ITサービスの先行きをやや慎重な見方に変更しています。

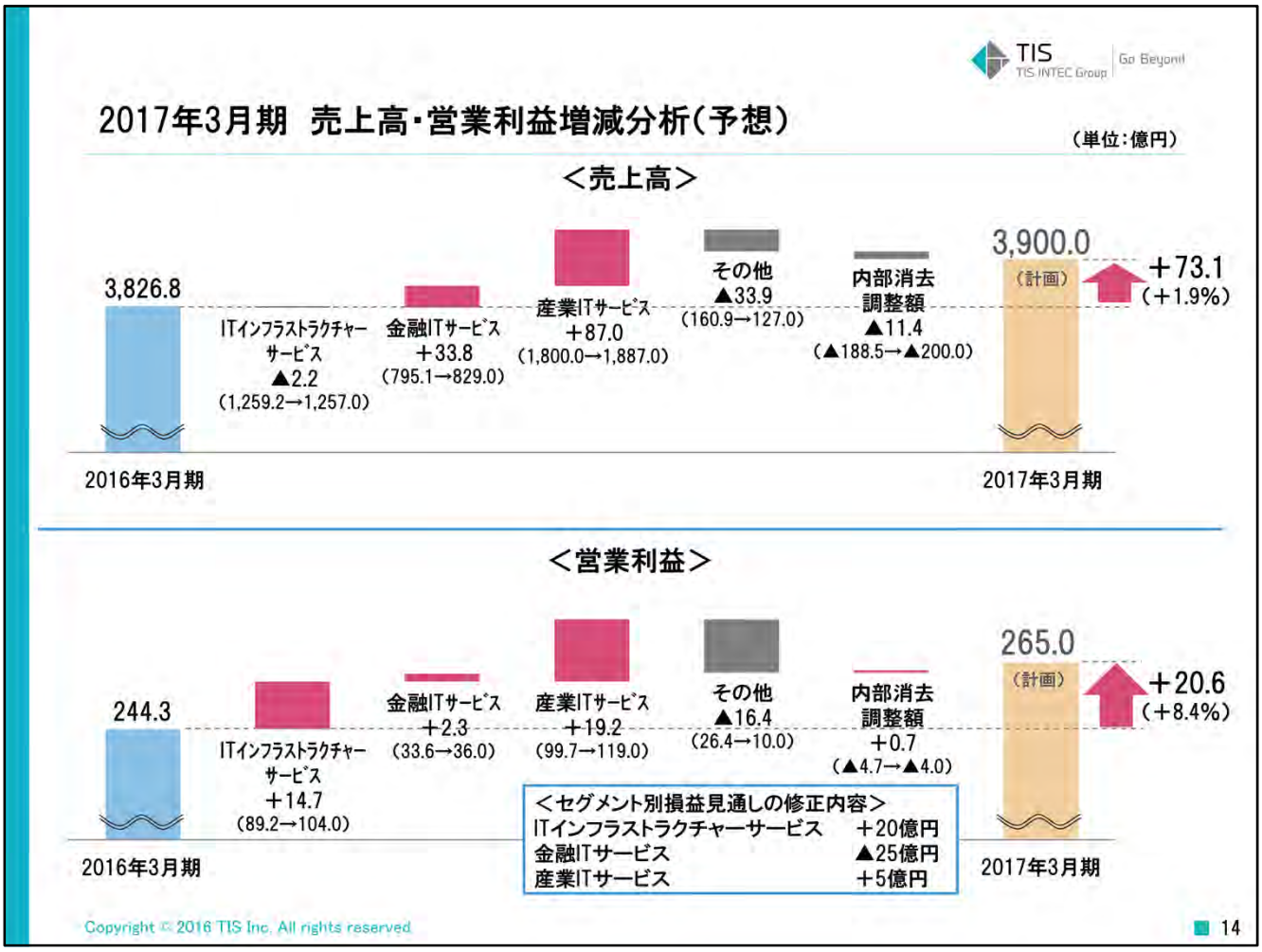


・そうした状況ではありますが、記載のとおり、我々グループとしては、通期計画の達成に向けて、それぞれのセグメントの注力ポイントをしっかりと実行していく所存であり、それによって業績向上を図っていきたいと考えています。

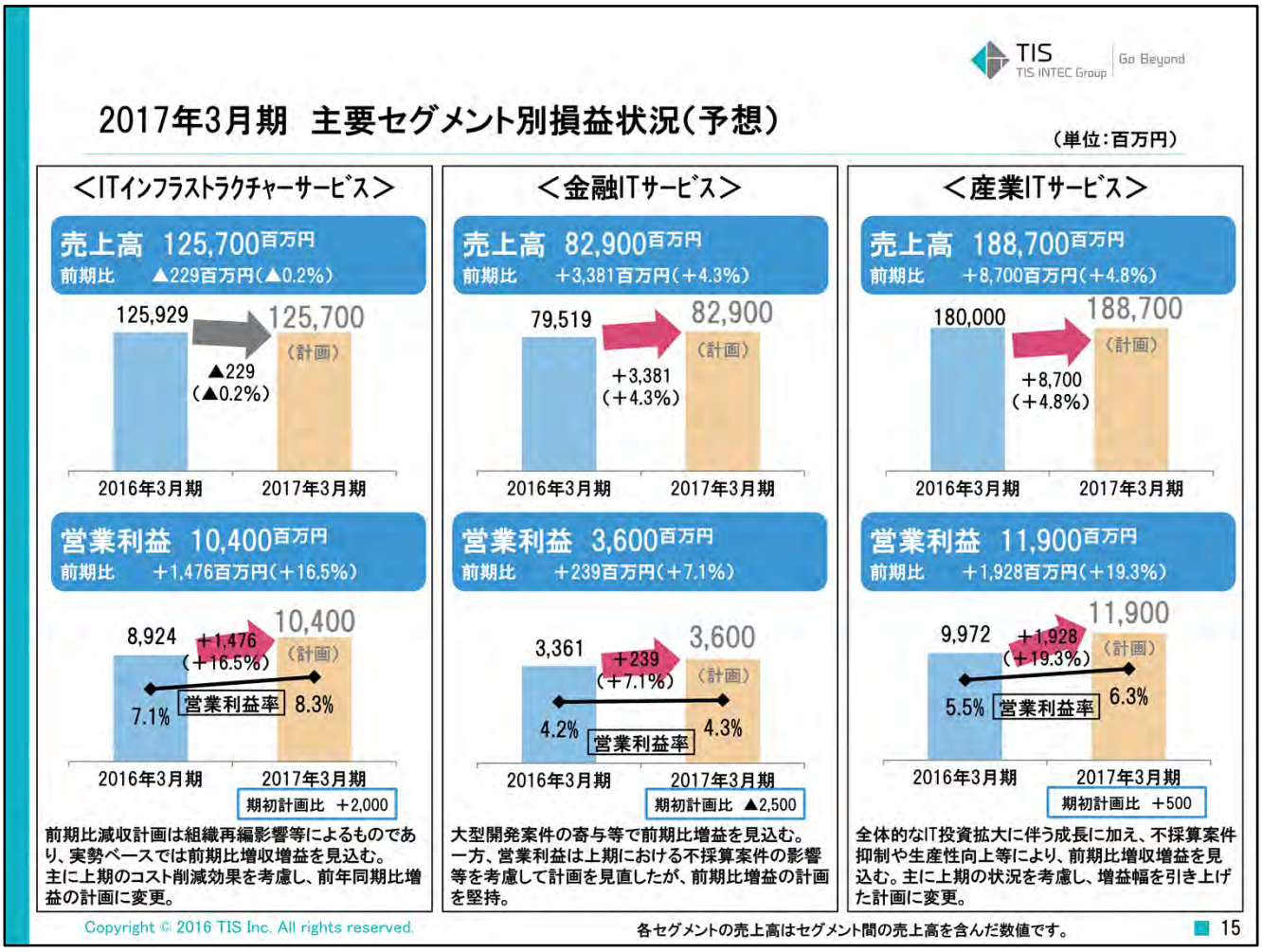


・その上で、通期業績見通しについては期初計画から変更はありません。

・売上高は前期比1.9%増の3,900億円、営業利益は前期比8.4%増の265億円、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比18.3%増の150億円の計画です。


TIS
TIS INTEC Group
Go Beyond
2017年3月期 売上高・営業利益増減分析(予想)
(単位:億円)
<売上高>
3,826.8
ITインフラストラクチャーサービス ▲2.2 (1,259.2→1,257.0)
金融ITサービス +33.8 (795.1→829.0)
産業ITサービス +87.0 (1,800.0→1,887.0)
その他 ▲33.9 (160.9→127.0)
内部消去調整額 ▲11.4 (▲188.5→▲200.0)
3,900.0 (計画)
+73.1 (+1.9%)
2016年3月期
2017年3月期
<営業利益>
244.3
ITインフラストラクチャーサービス +14.7 (89.2→104.0)
金融ITサービス +2.3 (33.6→36.0)
産業ITサービス +19.2 (99.7→119.0)
その他 ▲16.4 (26.4→10.0)
内部消去調整額 +0.7 (▲4.7→▲4.0)
265.0 (計画)
+20.6 (+8.4%)
<セグメント別損益見通しの修正内容>
ITインフラストラクチャーサービス +20億円
金融ITサービス ▲25億円
産業ITサービス +5億円
2016年3月期
2017年3月期
Copyright © 2016 TIS Inc. All rights reserved.
14

(説明省略)



・今申し上げましたように全体の業績計画については変更していませんが、その内訳であるセグメント別損益の見通しを少し変更しました。

・上期の各セグメントの営業利益の状況等を踏まえて、苦戦した金融ITサービスは引き下げ、それを好調なITインフラストラクチャーサービスと産業ITサービスでカバーする形で調整を行いました。

TIS TIS INTEC Group Go Beyond

2017年3月期 株主還元施策・配当予想

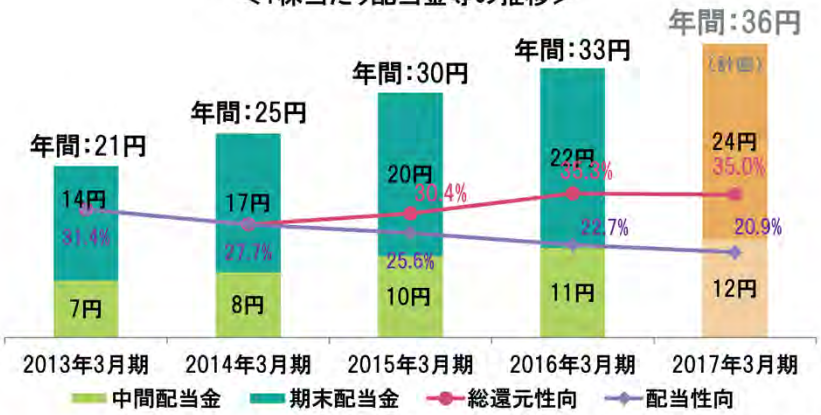
（単位：億円）

＜株主還元方針＞
配当による株主還元と自己株式取得による適正資本構成を図るため、総還元性向を採用。

総還元性向35%を目途（安定的な配当の継続＋自己株式取得）

2017年3月期 配当計画　　：1株当たり年間配当金：36円（前期比＋3円）
2017年3月期 自己株式取得実績　：取得株式総数：834,900株、取得総額：2,099百万円

＜1株当たり配当金等の推移＞



Copyright © 2016 TIS Inc. All rights reserved.

※総還元性向：純利益に対する配当と自己株式取得の合計額の比率

・最後に、2017年3月期の株主還元施策等についてご説明します。

・当社は前期から、安定的な配当の継続に加えて、自己株式取得を補完的に実施することで総還元性向35%を目途とする方針を掲げています。当期も、1株当たり年間配当金については3円増配の36円とする計画としており、すでに実施済みの21億円の自己株式取得を合わせると総還元性向35%を実現できる見込みとなっています。

・以上で、私からの説明を終了させていただきます。

・TIS　桑野です。あらためまして本日は当社決算説明会にご参加いただき、ありがとうございます。

・私の方からは、重点施策の進捗状況等についてご説明させていただきます。

・このページは5月にご説明した、当期のグループ経営方針や重点施策等を整理したものです。これに基づいて、これから説明させていただく各施策を推進しているところです。

TIS TIS INTEC Group Go Beyond

不採算案件の状況

■最近の業績に大きな影響を与えた2つの不採算案件

（案件概要）

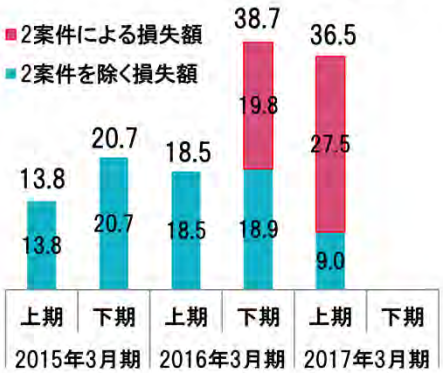
・カード系　基幹システム刷新案件

[原因]①外部設計工程における想定以上のプロジェクト規模の膨張
②納期・品質担保のための工程計画の見直し
[対策]①PJ経験豊かなトップ経営層の一人が、大型案件専任として対応
②規模適正化に向けた顧客交渉・体制強化
③人員体制強化

・銀行系　情報系ソリューション導入案件

[原因]設計品質不足
[対策]体制強化・完了時期見直し
※2017年3月期第2四半期で完了済

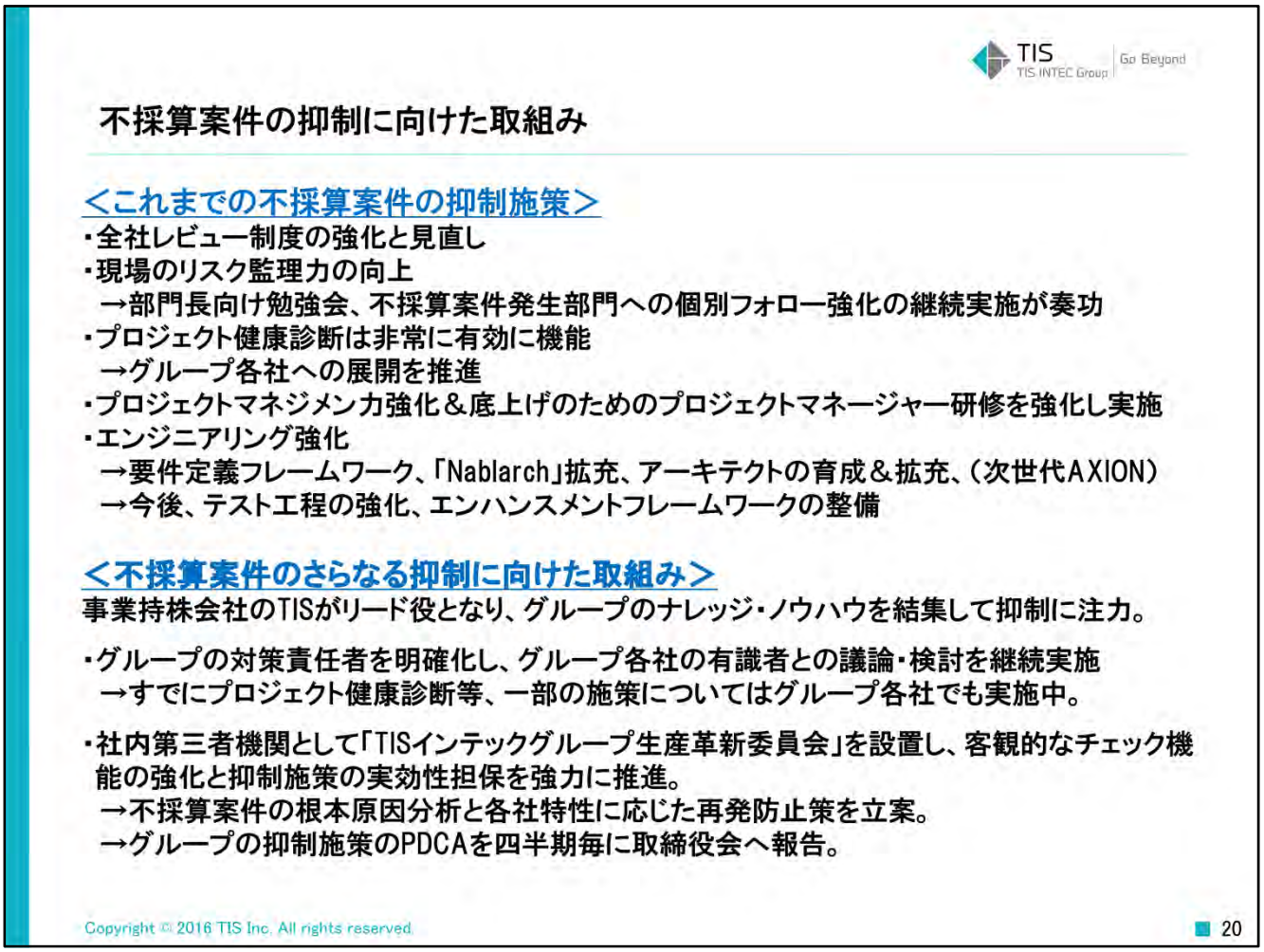
（単位：億円）



・現在対応中の開発案件のうち、通常レベル以上の監理が必要な案件は、上記の「カード系基幹システム刷新案件」のみと認識。
・上記の「カード系　基幹システム刷新案件」については、品質・納期を担保するために工程計画の見直しを実施。見直し後の計画の範囲内で進捗する限り、リスクは抑制可能。
⇒今回の引当計上を踏まえ、厳格な監理体制のもとで徹底的な進捗管理を実施。

Copyright © 2016 TIS Inc. All rights reserved.

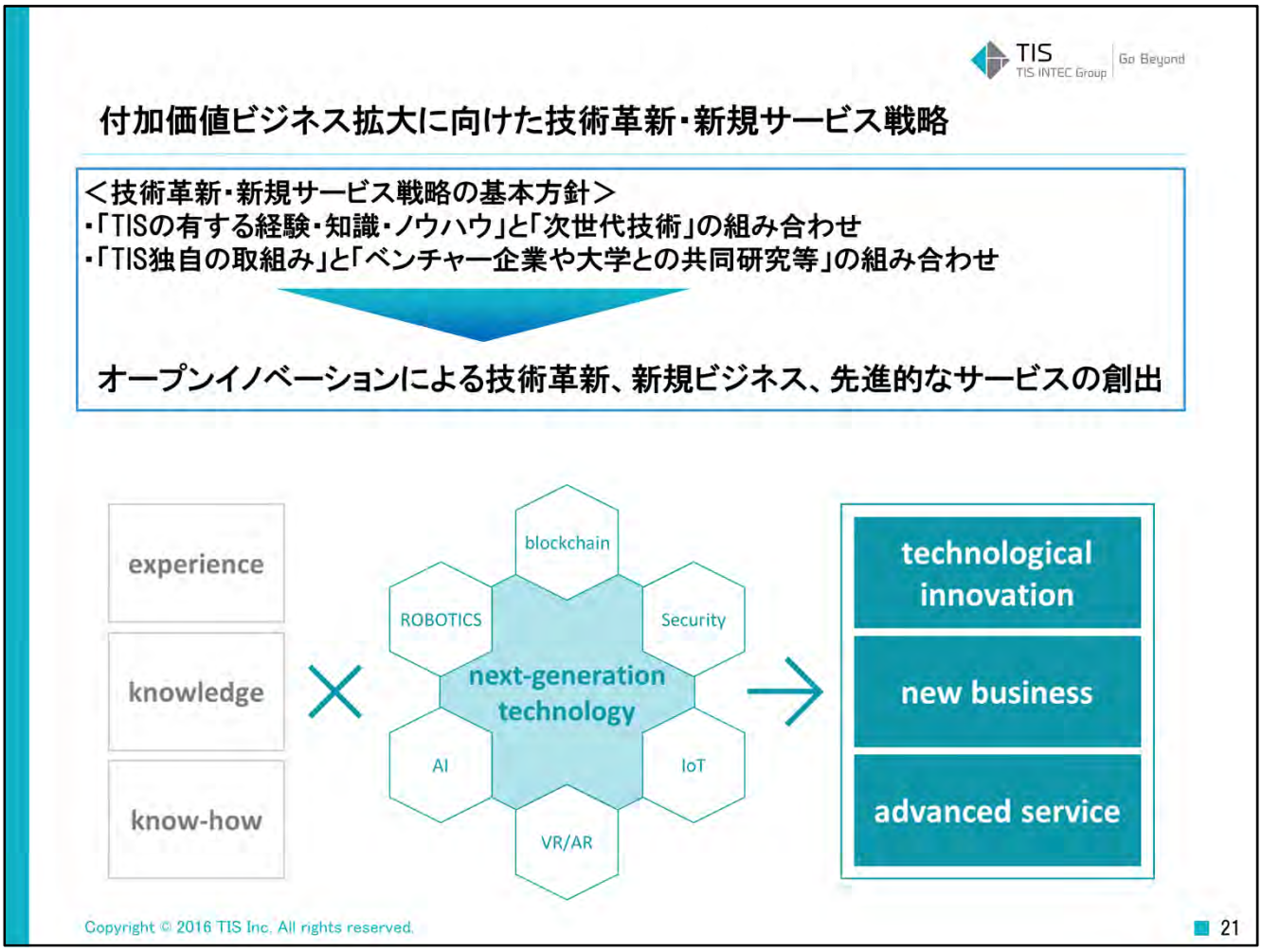
・先ほど、上期の業績説明でも触れましたが、不採算案件の抑制が最大のテーマであると認識しているにも係らず、その抑制が進まなかったことは大変遺憾であり、皆様の期待に沿えなかった点は申し訳なく感じています。
・当ページにありますとおり、最近の業績に大きな影響を与えた不採算案件は2つあります。
・1つはカード系の基幹システム刷新案件です。前期末に外部設計工程終了時のクライテリアで想定以上の規模の膨張に対して、お客様と合意のもと、規模の適正化を図ることに伴い、12億円を引き当てました。これでいったんはプロジェクトは正常化し、進捗上は予定通り進んでおり、現在は製造工程のピークにあります。ただ、それ以降のテスト工程・サービスインまでの切替え等に関して徹底的に課題を洗い出した結果、納期・品質を確保するためには、工程計画の見直し、人員体制の強化が必要であることが判明し、今後の工数計画を精緻化した結果、約25億円の引当てを行った次第です。
・もう1つは、銀行系の情報系ソリューション導入案件です。9月末で終了しましたが、設計品質不足に起因した工数増として、合計10億円の追加コストを計上しました。
・繰り返しになりますが、こうした状況が生じたことは真摯に受け止め、あらためて喫緊の重要課題としてその抑制に注力してまいります。
・現在対応中の個別案件で通常レベル以上の監理が必要だと考えておりますのは、先述のカード系の大型案件のみです。この案件についても、今回の見直しにより、現在認識できるサービスインまでのリスクへの対処は見切ったと判断しています。今後、計画どおりに進めていくべく最大限の注力をしていきたいと考えています。
・また、今回の事態を踏まえて、副社長執行役員をこのプロジェクトを含めた大型案件の専任としました。このような体制をとることにより、リスクが顕在化しないように最大限努力をしてまいります。



・不採算案件の抑制に向けた取組みとしては、これまでにも当ページ記載の内容を実施してきましたが、さらなる抑制に向けて、組織体制を変更した7月以降、事業持株会社であるTISをリード役として、グループのナレッジ・ノウハウを結集して抑制を実現すべく注力しているところです。グループ会社の有識者同士で議論や検討を重ねてきており、そうした中ですでにTISの実施している施策の一部をグループ会社が取り入れる状況になっています。

・さらに、こうした議論や検討を通じて、グループ横断的な委員会を設置し、第三者機関として客観的見地からのチェックを強化するとともに、抑制施策の実効性担保を強力に推進していくことにしました。

・このような施策がしっかり機能することで、不採算案件の抑制は実現していけると考えています。



・ここまではいわば「守り」の話をさせていただきましたが、これからは「攻め」の方の話をさせていただきたいと思います。

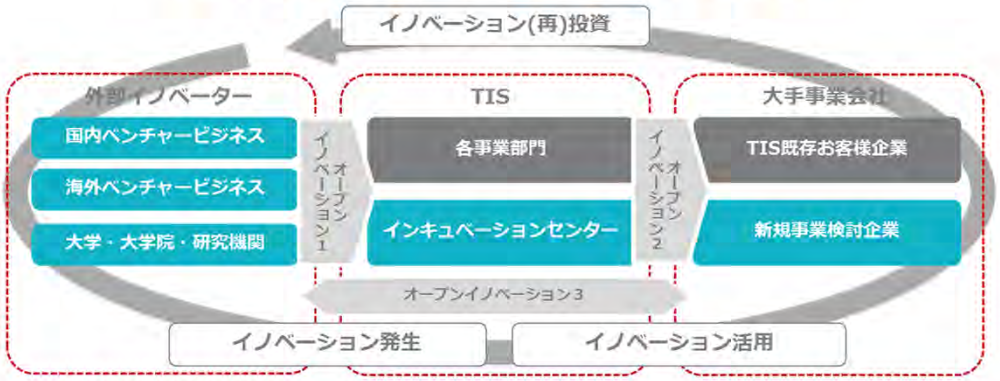
・将来の事業成長を支えるためには、新たな強みを創り、付加価値ビジネスを拡大していくことが非常に重要であると認識しています。そうした中、我々は、我々が培ってきた経験・知見・ノウハウ・人材と新しいテクノロジーを組み合わせることで、技術革新、新規ビジネス、先進的なサービスを創出していくことが可能になると考えています。特にTISが得意としている決済分野は新しい技術が盛んに取り入れられていますので、私どものグループにとってはこのような考え方が重要であると認識しています。

TIS TIS INTEC Group Go Beyond

付加価値ビジネス拡大に向けた新技術分野への取組み

・FinTech、IoT、AI等、新たな技術の進展や業界の潮流への対応は、顧客のデジタル経営に資するために必須。新たな強みとすることを目指し、積極的に取り組む。
⇒オープンイノベーションを通じて、迅速な「ビジネスモデルの変革」と「新規コアビジネスの立上げ」を目指し、諸施策を推進中。

＜TISの目指す「イノベーションのエコシステム」＞



➢外部イノベーターとTISの顧客企業をつなぐことを通じた新たなビジネスの創出
➢「コーポレートベンチャーキャピタル」や産学共同研究による連携
➢ブロックチェーン、AIなどの先端技術の獲得

Copyright © 2016 TIS Inc. All rights reserved.

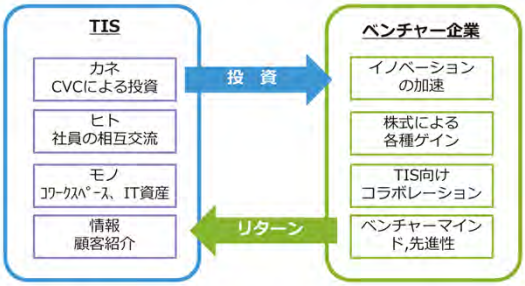
・オープンイノベーションを通じた「迅速なビジネスモデルの変革」と「新規コアビジネスの立ち上げ」を循環的に実現させていく「イノベーションのエコシステム」を構築するために諸施策を推進しているわけですが、その事例として、「コーポレートベンチャーキャピタル」や「bit&innovation（ビットアンドイノベーション）」を次の23ページでご紹介していますので、ご参照いただければと存じます。これからは、我々独自でやっていく部分もありますが、ベンチャー等とのアライアンスも重視していきたいと考えています。

TIS TIS INTEC Group Go Beyond

「イノベーションのエコシステム」推進のための取組み

■ベンチャー投資制度「コーポレートベンチャーキャピタル」の創設

・投資判断を最短1ヶ月程度で実施。
・投資先の企業への資金提供だけでなく、TISのエンジニアなどの“ヒト”や、ワークスペースやIT資産などの“モノ”も提供する多面的な連携を行う。
・投資後も新規ビジネス立ち上げの迅速化を図るため、単なる出資に留まらない手厚いサポートを実施。



■オープンイノベーションを促進する新拠点『bit＆innovation』の開設

・ベンチャー企業、スタートアップチーム、フリーエンジニアなどのイノベーター、大手企業の新規事業・R&D部門などの担当者、当社グループ関係者の三者による「コワーキングスペース」。
・スタートアップ企業および大手企業からのプレゼンなどの各種イベントや、最新の技術動向やマーケット動向をテーマにした勉強会を定期的に開催し、ビジネス創出機会の活性化を促進。

Copyright © 2016 TIS Inc. All rights reserved.

■ 23

（説明省略）

TIS TIS INTEC Group Go Beyond

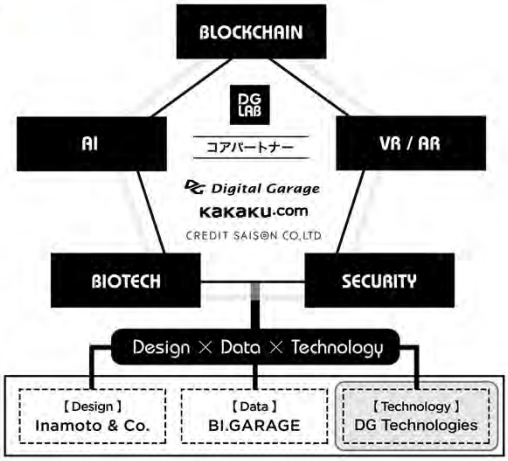
デジタルガレージとの協業強化

■「DG Lab」に技術開発パートナーとして参画

・株式会社デジタルガレージをはじめとする3社が設立したオープンイノベーション型の研究開発組織である「DG Lab」にTISが技術開発パートナーとして参画。
・自社の決済領域における知見とソリューションや、人工知能に関して蓄積してきた技術やノウハウを活用し、「DG Lab」の重点領域であるブロックチェーン分野の技術開発を支援

■戦略技術開発会社「DG Technologies」を共同設立

・ 株式会社DG Technologiesは、「DG Lab」と連携し、ブロックチェーン技術を活用したFinTech関連の技術開発から着手。
・TISは、DG Technologiesが開発するFinTech関連などの最新技術とプラットフォームを、クライアント企業向けのシステム構築にグローバルな視野で適宜利用していく予定。
・出資比率は、デジタルガレージ：80%、TIS：20%。



■デジタルガレージ株式の保有比率を引上げ

・IT面における戦略パートナーとしての関係をより一層強固にするため、1999年の資本提携して以降、決済領域を中心とした協業を進めてきたデジタルガレージに対する株式保有比率を5.0%に引上げ。

Copyright © 2016 TIS Inc. All rights reserved.

・また、この一環として、ブロックチェーンやFinTechといった新技術への取組みをスピードアップさせることができると考えてデジタルガレージとの協業を強化いたしました。デジタルガレージとは、1990年代後半のインターネットによる大きな変革がスタートした時点から様々な協業をしてきましたが、今般、同社等がつくったオープンな研究開発機関である「DGLab」に戦略的な技術開発パートナーとして参画し、研究成果をはやく具体化し、お客様に提供する取組みを推進していく考えです。

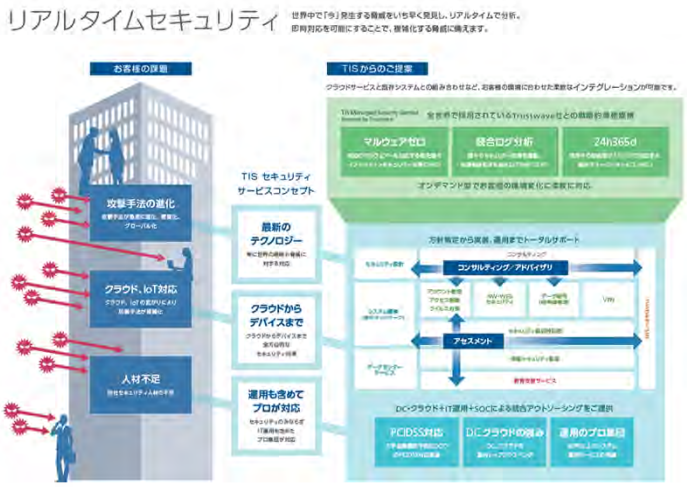
TIS TIS INTEC Group Go Beyond

シンガポールテレコムとの戦略的提携

・シンガポール大手通信会社Singapore Telecomunicationsとマネージドセキュリティサービスにおける戦略的提携契約を締結。同社子会社で北米最大級のセキュリティベンダーの一つであるTrustwave Holdingsが提供するマネージドセキュリティサービスを日本市場へ展開。
⇒日本市場で高まっているセキュリティ対策を統合的に提供し、日本市場でのセキュリティビジネス拡大を目指す。

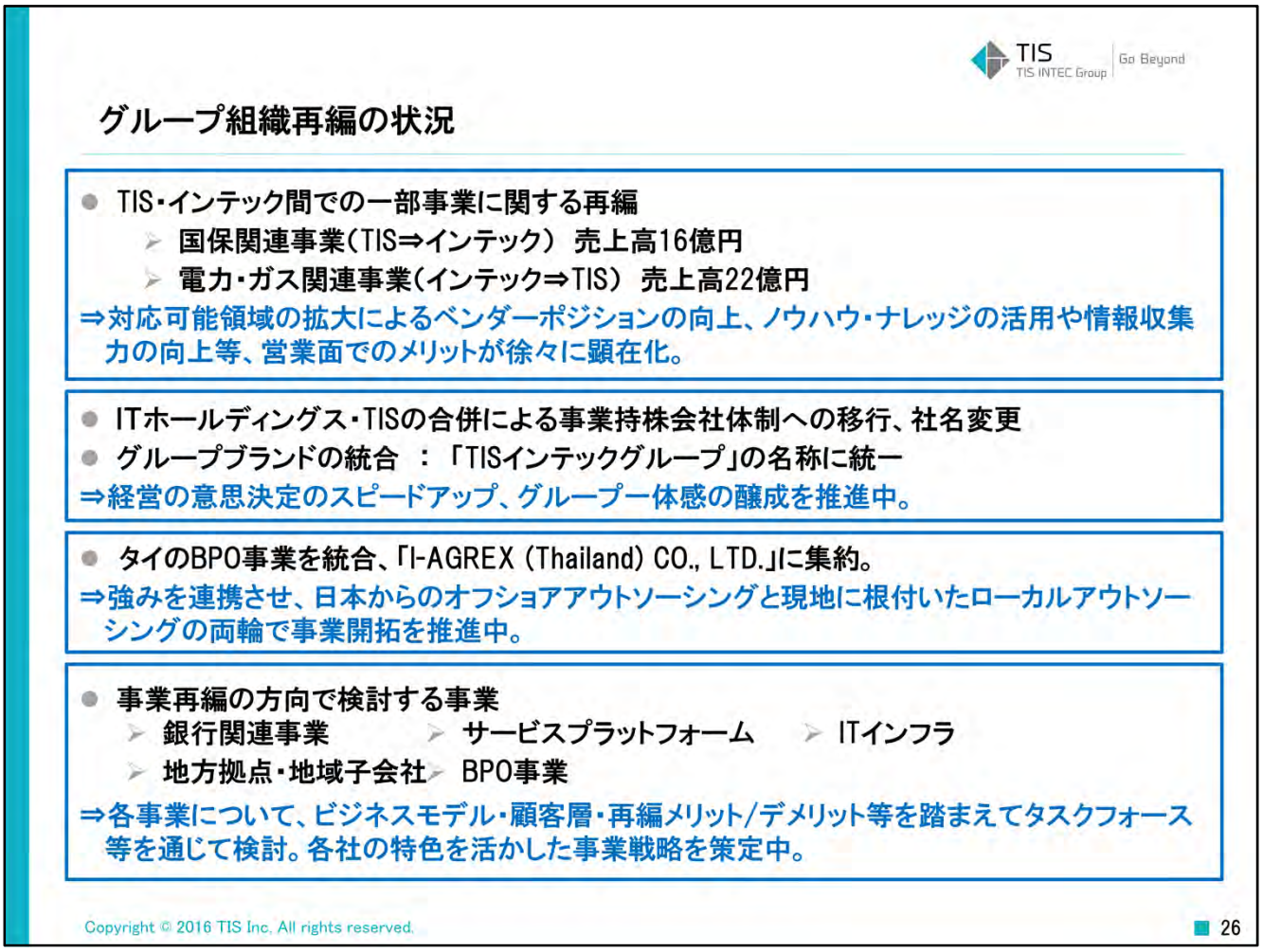
TISが提供していく
「リアルタイムセキュリティ」のコンセプト

➢世界中で「今」発生する脅威情報をいち早く収集分析し、提供サービスに即時対応する「サイバーセキュリティリアルタイムレスポンス」を実現。
➢セキュリティ対策の初期投資を押さえ、必要なセキュリティサービスをスタートできる「クラウドサービス」として提供。
➢世界各地のSOC(Security Operation Center)を通じて、世界中のアナリストが「24時間365日」常に脅威を監視。



Copyright © 2016 TIS Inc. All rights reserved.

・先週発表いたしましたシンガポールテレコムとのアライアンスによる新たなセキュリティサービスの提供をご紹介しています。
・現在、セキュリティ問題はボーダーレスになっておりこれまで以上にグローバルかつリアルタイムな対応が求められるようになっています。日本市場においても、2020年の東京五輪の開催に向けて日本企業が攻撃の対象となるケースが増加することが考えられており、お客様との間でも話題としてよく上がります。その一方で、高度なセキュリティ知識を持つ専門家が不足している状況にあります。
・そこで、セキュリティ事業をより強化したい我々グループと、アジア地域の重要市場である日本でのビジネス拡大を狙うシンガポールテレコムが、相互の強みを組み合わせるべく、今回の業務提携に至りました。
・シンガポールテレコムのグループ会社であるTrustwave社は、すでに世界96か国でサービスを提供し、8つのSOCを持っている北米最大級のセキュリティベンダーの一つです。今般、9つめのSOCを日本に作るということで、TISのデータセンターを含めたアライアンスでサービスを提供していくことになりました。



・続いて、グループ組織再編の状況です。

・皆様ご存知のとおり、我々はこの7月からTISインテックグループとして新たな一歩を踏み出しています。その前段階として4月には、TISとインテックの間で一部事業の相互移管による集約を行いましたが、徐々にそのメリットが出てきていると感じています。

・今後も事業持株会社体制を活かしたグループ全体最適を追求していく方針のもと、各社の特色を活かした事業再編を進め、メリットを享受していきたいと考えています。

TIS TIS INTEC Group Go Beyond

海外事業における取組み①

・ベトナムの戦略的BPO会社「F-AGREX GLOBAL」が大規模申込書処理業務の受託に貢献。
⇒コスト低減が可能な海外オフショア拠点を活用しながら、日本品質の確保を実現。
オフショアデータエントリーの主流である中国・大連等に代わる新たな発注先としてのベトナム活用の有効性を立証するモデルケースに。

- コスト競争力強化のため、ベトナムのオフショアデータエントリー会社「F-AGREX GLOBAL」の連結子会社化を決定。同社は創業から3年で大型案件を受注できるほどの体制が整う（日本人スタッフ2名、現地スタッフ205名）。主な顧客は、生保・損保・公共系。
- アグレックスが独自開発したデータエントリー手法や教育制度を取り入れることで、日本語が分からないベトナム人スタッフでも、日本語（漢字・ひらがな・カタカナ）のエントリーが可能。設立以来、継続的な教育を行うことにより、エントリー精度は日本人と同等レベルまで上昇。

※2016年10月の優秀社員表彰式の模様（ベトナム・ハノイ）

Copyright © 2016 TIS Inc. All rights reserved.

27

・最後に、海外事業における取組みを27ページ・28ページでご紹介しています。

・いずれも、海外事業の拡大にあたって要となる会社を連結子会社化したという事例です。現地での事業拡大を目指すだけではなく、先進的な海外技術を我々の新たな強みとして取り込み、日本市場で活用していくことを考えています。

・また、私自身が現地に出張した時に感じたことでもありますが、これらの会社は、単に力を持っているだけではなく、企業も国も成長が著しいこともあって、活気に満ち溢れています。こうした活気をぜひともTISインテックグループ全体に波及させ、さらなる成長を目指していきたいと考えています。

・以上で、ご説明を終了します。

TIS TIS INTEC Group Go Beyond

海外事業における取組み②

・タイにおける決済関連事業の推進と先進的な海外技術の活用を目的として、「PromptNow」を連結子会社化。
⇒双方の強みを活かし、著しい成長が見込まれるタイでの決済関連事業の拡大を目指す。

- PromptNowは、主に銀行・保険会社等の金融機関向けモバイルアプリケーションの開発に強みを持つタイのリーディングカンパニー。
- 2014年に資本・業務提携したタイの上場企業MFEC Public Company Limitedとの間で新たな成長分野での協業を議論・検討してきた中で、同社子会社のPromptNowが掲げるタイにおける決済ソリューションサービス拡大の戦略を高く評価。PromptNowをタイにおける決済関連事業での要として位置付け、連結子会社化。

＜PromptNowの提供ソリューション＞
モバイル(携帯)アプリケーションのフロント・エンドからミドルウェアまでを網羅。

※MEAP: Mobile Enterprise Application Platformの略でこれまでPCで利用していた業務アプリケーションをタブレットやスマートフォンで効率的にかつ低コストで開発・運用するための製品。

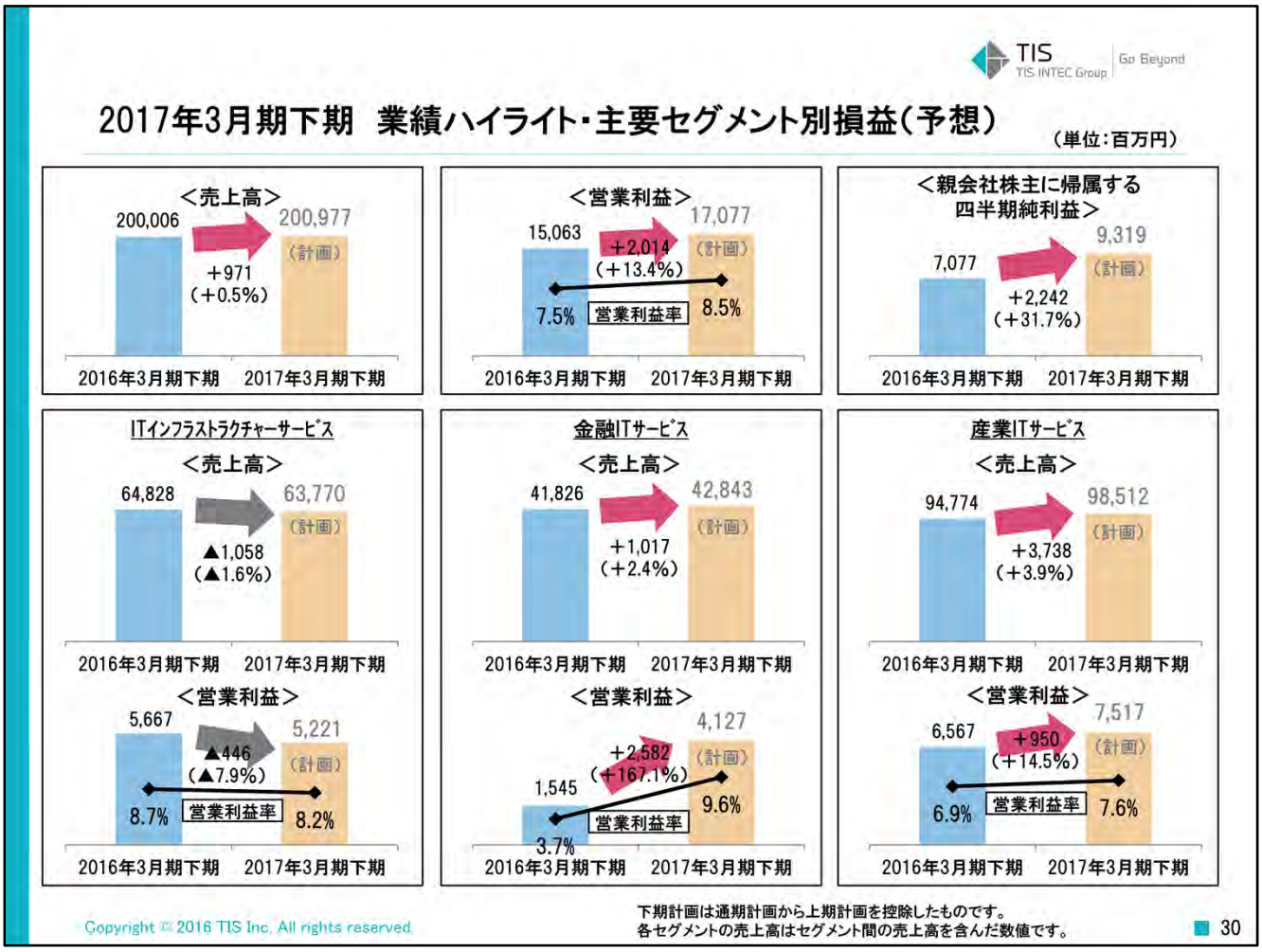
Copyright © 2016 TIS Inc. All rights reserved.

28

（説明省略）

TIS
TIS INTEC Group
Go Beyond
2017年3月期第2四半期(累計) 業績概要
2017年3月期 業績見通し
重点施策の進捗状況
参考資料
Copyright © 2016 TIS Inc. All rights reserved.
29

（説明省略）


TIS
TIS INTEC Group
Go Beyond
2017年3月期下期　業績ハイライト・主要セグメント別損益（予想）
（単位：百万円）
＜売上高＞
200,006
200,977
（計画）
+971
（+0.5%）
2016年3月期下期
2017年3月期下期
＜営業利益＞
15,063
17,077
（計画）
+2,014
（+13.4%）
7.5%
営業利益率
8.5%
2016年3月期下期
2017年3月期下期
＜親会社株主に帰属する
四半期純利益＞
7,077
9,319
（計画）
+2,242
（+31.7%）
2016年3月期下期
2017年3月期下期
ITインフラストラクチャーサービス
＜売上高＞
64,828
63,770
（計画）
▲1,058
（▲1.6%）
2016年3月期下期
2017年3月期下期
＜営業利益＞
5,667
5,221
（計画）
▲446
（▲7.9%）
8.7%
営業利益率
8.2%
2016年3月期下期
2017年3月期下期
金融ITサービス
＜売上高＞
41,826
42,843
（計画）
+1,017
（+2.4%）
2016年3月期下期
2017年3月期下期
＜営業利益＞
1,545
4,127
（計画）
+2,582
（+167.1%）
3.7%
営業利益率
9.6%
2016年3月期下期
2017年3月期下期
産業ITサービス
＜売上高＞
94,774
98,512
（計画）
+3,738
（+3.9%）
2016年3月期下期
2017年3月期下期
＜営業利益＞
6,567
7,517
（計画）
+950
（+14.5%）
6.9%
営業利益率
7.6%
2016年3月期下期
2017年3月期下期
Copyright © 2016 TIS Inc. All rights reserved.
下期計画は通期計画から上期計画を控除したものです。
各セグメントの売上高はセグメント間の売上高を含んだ数値です。
30

（説明省略）

TIS TIS INTEC Group Go Beyond

2017年3月期第2四半期　プレスリリース/お知らせ①

発表日付	タイトル
2016年7月1日	新グループ体制「TISインテックグループ」について
2016年7月4日	デジタルガレージ、カカクコム、クレディセゾンが新設する研究開発組織『DG Lab』に、TISが技術開発パートナーとして参画 ～ ブロックチェーンや人工知能などの分野での技術開発を支援 ～
2016年7月4日	TIS、イスラエルでキャッシュレスがテーマのFintechハッカソン『Japan Cashless Hackathon 2016 Tel Aviv』を開催 ～ JCBとイスラエル発の決済関連ソリューション発掘を企図 ～
2016年7月4日	TISがcrewwとオープンイノベーションプログラムを共同実施 ～ スタートアップ企業の先進的な技術やアイデアを活用した事業・サービスの共創を目指す ～
2016年7月5日	TISのERP導入テンプレート『TCM(TIS Chemical Model)』が、SAPの次世代ビジネススイート「SAP® S/4HANA Enterprise Management」に対応
2016年7月7日	TIS、IoT/O2Oプラットフォームソリューションを提供するベンチャーTangerine株式会社へ出資
2016年7月7日	インテック、北越銀行へF3(エフキューブ)クラウド最新バージョンを提供
2016年7月8日	TISのeラーニングシステム「楽々てすと君」に、『標的型メール攻撃に関するコンテンツ』を追加
2016年7月11日	クラウド環境に対応した次世代監視システムMonarchをリリース(クラウド・スコープ・テクノロジーズ)
2016年7月12日	TIS、エネルギー業界向けソリューション『エネLink』に新メニューを追加
2016年7月13日	TIS、「Shibaura Business Model Competition」を共催
2016年7月13日	ネクスウェイ、“思い出してもらえる”ビジネス暑中見舞いシーンに特化した「暑中見舞いの印刷発送サービス」提供開始
2016年7月15日	TIS、『Oracle Excellence Awards 2016』でOracle Excellence Award Specialized Partner of the Year：Red Stack - Japanを2年連続受賞
2016年7月19日	ネクスウェイ、プロダクトマネージャー向け「IT製品の情報配信機能に関する調査」を実施
2016年7月21日	アイ・ユー・ケイ、遠隔地ファイルレプリケーションソリューション「IUKSYNC2016」を販売開始
2016年7月22日	TIS、カード会員がスマホアプリで決済カードの利用管理ができるシステム『CARD×DRIVE』を提供開始
2016年7月28日	連結子会社の人事異動のお知らせ(TISインテックグループ)
2016年7月29日	大阪大学 石黒研究室と、TIS、エルブズが、「AIと人の対話シナリオに関する研究」を開始
2016年8月5日	インテックとアシスト、『超高速開発ソリューション』で協業
2016年8月8日	連結子会社の人事異動のお知らせ(TISインテックグループ)
2016年8月8日	クオリカ、自社の営業支援システムを刷新
2016年8月9日	ベリトランスのマルチ決済プラットフォームにおける「データセンター完全二重化」を日本オラクルとTISが支援へ
2016年8月22日	TISのCLO機能を持つクラウドサービス『Goodeal！』を山陰信販が採用
2016年8月23日	公立はこだて未来大学 松原研究室と、TIS、エルブズが、AIの対話に関する二つの共同研究を開始
2016年8月24日	デジタルガレージとTISが、FinTech関連事業の開発などに向けた戦略技術開発会社「DG Technologies」を設立
2016年8月24日	ネクスウェイとドリーム・アーツ、メールを超える！ToDo登録可能な「メッセンジャー機能」を追加した『店舗matic』最新版リリース

Copyright ©2016 TIS Inc. All rights reserved.

（説明省略）

TIS TIS INTEC Group Go Beyond

2017年3月期第2四半期　プレスリリース/お知らせ②

発表日付	タイトル
2016年8月25日	マイクロメイツ、SharePointのポータルサイトをすぐに利用できるSharePoint Onlineの「マイクロメイツかんたんポータル」をリリース
2016年8月25日	インテックの金融機関向けCRMサービスとパスコの地図情報サービスを連携 顧客の囲い込み強化、新規顧客開拓など効率的な営業を支援
2016年8月26日	TIS、「Zabbix」活用のOSS「AWSサービス監視用テンプレート」の拡張開発サービスと保守サポートサービスを提供開始
2016年9月5日	TISのSaaS型決済プラットフォーム『PrepaidCube#』、カンムの国際ブランドプリペイドカード決済システムに採用
2016年9月12日	人事異動および機構改革のお知らせ(TIS)
2016年9月14日	TIS、「SuperStream-NX」と「Oracle Planning and Budgeting Cloud Service」を連携した『モダン会計・予算管理ソリューション』を提供開始
2016年9月15日	TIS、オープンイノベーションを促進する新拠点『bit&innovation』を西新宿に開設
2016年9月29日	鈴与商事の電力小売事業の料金計算・顧客管理業務システム構築を、TISとKS-SOLが支援
2016年9月30日	インテック、タワー111ビル スペシャルライトアップのお知らせ

Copyright © 2016 TIS Inc. All rights reserved.

（説明省略）

（ご注意事項）
・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、TISインテックグループ（TISおよびグループ会社）が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
・各四半期会計期間（3カ月）の数値は累計期間の差引により算出しています。

（説明省略）